

安積中学校・安積高等学校在京同窓生

東京桑野会会報

No. **48**

2026年4月1日発行

発行・編集人：石井俊一

発行所：東京桑野会事務局 〒104-0061 東京都中央区銀座八丁目9番13号 K-18ビル9階 石井綜合事務所内



● 東京桑野会 2026(令和8)年度 定期総会・懇親会のお知らせ

日時	2026(令和8)年6月27日(土) 15:20 受付開始 16:00 総会開始	
場所	千代田区一ツ橋の教育会館9階 「喜山倶楽部」 https://kizan-club.com/ 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館 9F Tel. 03-3262-7661 (代表)、地下鉄神保町駅A1またはA8出口より徒歩3分	 2025年度 総会・懇親会 実施報告
会費	懇親会費 一般¥8,000 卒業期別に金額に差異あり。学生は無料、127期以降の若手の会員は半額¥4,000 (年会費は別に納付)	
懇親会	立食(年配者のためのテーブル席を用意)、ビュッフェスタイル	
タイムスケジュール 時間は多少前後することがあります	15:20 ~ 受付開始 16:00 ~ 令和8年度定期総会 会長改選について討議 16:30 ~ 講演会 秋田 調(86期)氏 特殊法人・福島国際研究教育機構 研究開発部門エネルギー研究分野・副分野長 17:30 ~ ご来賓挨拶・懇親会 19:30 お開き、解散 ※総会と講演会には椅子席を用意し、懇親会移行時に立食パーティー形式に配置します。	
その他	年会費は2,000円で懇親会費とは別額です。会計事務処理の省力化のため、懇親会費と年会費は合わせて、会報と共に送付する振込用紙にて郵便局より振り込んでください。当日現金支払いも可能です。当日の新規入会や飛び入り参加も大歓迎です。知人・友人の同窓生ともお誘いの上、どうぞご参加ください。	

会 長 メ ッ セ ー ジ

戦後80年の年、「昭和16年夏の敗戦」（猪瀬直樹著）を読む

昭和16年春、陸海軍と各省と民間から選抜されたエリート35人が首相官邸に招集され、彼らは「模擬内閣」を組織し、石油資源を求めて南方に侵攻し米英両国との開戦に至る想定で机上演習を行い、同年8月末、官邸にて研究報告をした。

彼らの精密なシミュレーションの結論は「日本必敗」その筋書きは、南方からの石油輸送船の撃沈率も含め原爆投下以外は、ほぼ正確に未来を予言していた。時の東条英機陸相は「これはあくまでも机上の演習」と一蹴した。正確な見通しの提言にもかかわらず大本営は干戈交えずの策を取り得ず、開戦へと突き進んだ。

決断の先送り、空気という名の同調圧力とその支配、意思決定の主体が見えず「責任」も集団の中で埋没していく日本の意思決定の宿痼は、近年の3.11東日本大震災や世界を襲った新型コロナパンデミックへの政府対応にも二重写しで色濃く投影された。

今に続く日本の意思決定の病理を防ぐ手立てのありやなしや。思うに官民の指導者たちのリーダーシップの発揮、議会やメディアの歯止めの役割、そして、個々の自立した市民の「空気」に絡めとられない事実を見極める眼力の涵養かと。



東京桑野会会長
浅川 章
(76期)

東京桑野会 三原則 [(故)澤田 悌 元会長創設の三箇条]

- ① 桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ② 会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③ 何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

母 校 だ よ り

昨年2025年4月8日、母校に県立安積中学校が併設し開校しました。2クラス60名の入学です。高校は同日に7クラス280名が入学しました。

昨年7月23日、中学校新校舎の安積野ホールにて、OBで東京藝術大学教授・クリエイティブディレクターの箭内道彦（96期）氏による「ミライ授業」が行われました。

昨年8月30日、郡山にて母校創立140周年記念式典と祝賀会が盛大に開催されました。

恒例の第50回ロードレースが10月10日に開催され、クラス対抗で2年5組が優勝しました。

SSH海外研修として、2025年2月にはインド、12月には台湾、2026年1月にはドイツに、それぞれ代表の生徒達が渡航し、各1週間現地の高校生と交流しました。国際共創力を持



箭内道彦氏の「ミライ授業」



新しくなった桑野文庫の自習室

つ強いリーダーの育成を目指します。また多くの国々から高校生を迎えて、本校での国際交流事業を実施しました。福島第一原発にも訪問しています。

大学等の進学につきましては、2026年3月の結果は未発表。前年2025年3月の状況では、東京大4名、東北大24名、筑波大5名、京都大4名、慶應大14名、早稲田大25名（いずれも既卒を含む）等となっています。

中学校新校舎内に中高共用の図書館「桑野文庫」が移設されました。書架の他に広い自習室が設置され、静かに落ち着いて利用できる環境が整っています。

OBの皆さんも母校を訪れて、新校舎内を見学されてはいかがでしょうか。母校はOBの皆さんに広く開放しています。事務所本館にお立ち寄りください。



安積野ホールでの授業風景



安積中学・高校の校舎空撮

安積桑野会会長ご挨拶

安積桑野会会長
笠間善裕 (84期)



東京桑野会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年8月30日に執り行われました安積高校創立140周年記念式典の際には、浅川章会長にもご出席を頂き、有難うございました。おかげさまで式典が盛大に行われるとともに、同窓生でもある富永悌二東北大学総長(89期生)から記念講演を頂き、在校生にとっても、将来の糧となる式典となり、成功裏に終了することが出来ました。

また、140周年記念事業に際しては、同窓生の皆様から多大なる寄付を頂戴致しました。ことに複数回にわたり寄附をお願いしたところ、その度に寄附して頂いた同窓生が多数おられ、同窓生の母校に対する熱い思い「安積愛」をあらためて感じた次第です。ご協力頂いた皆様に心から感謝申し上げます。

また、昨年4月には、既にご存知のとおり、県立安積中学校が中高一貫校として母校安積高校に併設されて開校し、5

倍の入学試験の競争を勝ち抜いた1期生60名が入学しました。1年生のみの中学校ではありますが、生徒は自ら進んで生徒会役員選挙を行い、安中生徒会執行部を発足させるなど、開拓者精神を早くも発揮しております。同窓生である椎根健雄郡山市長(108期生)も、授業を見学し、生徒たちの発言の活発さに驚いたとの感想を述べています。母校にも新しい風が確実に吹き始めていることを感じます。

東京桑野会を始めとして各地桑野会に、学校関係者とともに出席させて頂いておりますが、出席する度に校歌・応援歌とともに歌い、同窓生の皆様の母校に対する熱い思い「安積愛」を共有させて頂いております。この「安積愛」の大きな要素として、入学直後の応援歌練習があると思います。

既にご存知の通り、昨年入学した141期生の学校行事としての応援歌練習が中止となりましたが、その後、応援部を中心とした生徒らによる自主練習が行われました。森下校長先生も、今後について、応援歌練習そのものをなくすつもりはないと明言されており、時代に合わせながらも、新入生を安高生に変える応援歌練習は続いていくものと確信しています。

最後になりますが、旧本館(安積歴史博物館)の耐震工事が来年3月の完成を目指して進められておりますところ、同窓生の皆様をお願いしております募金については、未だその目標額に届いておりません。皆様のさらなるご支援を心よりお願いし、ご挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお願い申し上げます。

校長ご挨拶

安積中学校・高等学校 校長
森下陽一郎



会員の皆様には、日頃より母校の教育活動に対しまして多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。令和7年度は、併設中学校の開校、そして創立140周年記念式典という、安高にとって大きな節目となる出来事が重なりました。東京桑野会総会・懇親会では、皆様からの温かい励ましのお言葉、そして後輩たちに向けた真心のこもったご祝辞を賜り、校長として大きな力をいただきました。改めまして深く感謝申し上げます。

開校後の中学校では、生徒たちが日々の学びに真剣に向き合い、自らを伸ばそうとする姿が見られます。保護者の皆様からも「学校生活が充実しているようだ」との声が寄せられ、学びの場としての中学校が着実に形を成しつつあることを実感しております。ある生徒は私との会話の中で「毎日が楽しいです」「自分の意見が言えるし、みんなちゃんと聞いてくれる」と微笑みながら話してくれました。伸びしろある生徒に対して、その先を目指すより良い教育が提供できるよう教職員一丸となって努めてまいります。

創立140周年記念事業については、式典の挙行、記念誌の作成、桑野寮の改装など、多岐にわたる取り組みを、皆様のご支援のもと無事完遂することができました。壇上から見た式典会場の厳かな雰囲気、祝賀会で拝見した同窓生の皆様の希望に満ちた眼差し、そして同窓生である東北大学・富永悌

二総長によるオンライン講演等からは、安高がこれまで積み重ねてきた歴史の重みとその偉大さを、私は改めて実感しました。私にとっては140周年に関わる全てのことが、安高が未来へ向けて進むべき道を再確認する大切な時間となりました。

11月に実施した安積中高のオープンスクールには570名もの方々が来校され、中高一貫校としての安積への大きな期待を改めて強く感じました。期待の中心には、さらなる学力の向上と生徒の自己実現という使命があり、教職員一同、責任の重さを改めて胸に刻んでいるところです。

一方で、私にとって大きな決断となったのが、応援歌練習の中止です。中止後、多くの同窓生や関係者の皆様から率直なご意見や叱咤激励をいただきました。すべての言葉からは、安高の伝統を大切に思う深い愛情が伝わり、校長として真摯に向き合うべき課題であると改めて認識いたしました。年が改まった現在、生徒会や応援団を中心に、次年度の実施のあり方について話し合いが進められております。令和8年度に入学する第142期生がどのような形で伝統の精神を受け継いでいくのか、ぜひ温かく見守っていただければ幸いです。

140年に及ぶ歴史と伝統は、先輩方一人ひとりの努力と情熱の結晶であり、その積み重ねの上に現在の安高があります。その伝統を継承するだけでなく、新しい時代に応じてさらに発展させていくことが、今を生きる私たちの責務と考えております。本校の教育目標である「人類に貢献する、志高く有為な人材」の育成、そして中高一貫教育のスローガン「未来を描き、未来を創る開拓者」のもと、生徒が自らの可能性を信じ、社会に貢献できる人間へと成長できるよう、今後も確かな歩みを続けてまいります。

東京桑野会の皆様には、引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、会員皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

2025年度(令和7年度)に連絡がありました方の分を掲載します。逝去されました会員のご冥福をお祈りします。

会員消息

物故者氏名	期	逝去日	物故者氏名	期	逝去日	物故者氏名	期	逝去日
渡辺 正弘	54	2025/03/07	佐原 正郎	67	2021/10	作田 穎治	76	2024/06/08
今泉 定雄	57	2025/不詳	吉田 勝弥	68	2024/05/25	平野 照次	76	2024/11/06
石井 宗典	58	2025/02/07	鈴木 健	68	2025/04/01	豊島 善光	79	2025/03/21
遠藤 真望	58	2024/09	柏木 光蔵	69	2024/09/19	池田 八郎	79	2018/03
小針 幸男	59/60	2024/09/24	原瀬 久大	69	2025/02	吉田 豊	83	2025/11
滝田 孫一	62	2025/03/26	相楽 正則	71	2024/03	高崎 茂	84	2024/10/31
後藤 光也	63	2026/02/13	磯貝 直尚	73	2025/03/17	牧野 大輔	85	2025/04/13
佐久間 一	65	2003/10/15	大平 正徳	76	2021/10/19	高野 昌明	90	2024/07/27

敬称略(卒業期順)

叙勲

2025年度(令和7年度)秋の叙勲に、増子輝彦(79期)氏が「旭日大綬章」を受賞しました。まことにめでとうございます。多年にわたり国会議員として議案審議の重責を果たしたことに対する功労です。

安積歴史博物館から

安積歴史博物館業務執行理事 橋本文典 (84期)

東京桑野会会員の皆様におかれましては益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

今回は現在進行中であります「保存修理工事(災害復旧)」についての進捗状況と現時点で考える竣工後の利活用についてお話しさせていただきます。

まず、保存修理状況ですが、先の東日本大震災時における修復時は崩落した「土壁」の復旧が主でしたが今回は耐震工事が主体です。明治期の学校建築を今に伝える木造の重要文化財の建造物であるため、外観上にも配慮をしつつ、壁面や天井や床板などを一旦解体し、耐震パネルや横揺れ防止のブレースなどを取付けた後、再び元に戻すという工法を採用しました。建物の性質上作業は人力で行い、

熟練した技術が求められる汚損や欠損、ひび割れなどの傷んだ箇所への「嵌め木」や「埋木」による修復を施した後、復元していきます。壁も同様に掻き落とした砂や土や漆喰を再利用の可否を分別して再度塗り直しますが、凍みによる粘着力不足防止のため冬期間は休止します。残すところ一年、保存修理工事は当初の予定通り順調に進んでいます。

解体作業中に思わぬ発見物も有りました。

天井に描かれた「絵(のような)」や当時の学生証、雑誌『螢雪時代』の表紙(写真①)や映画館の割引券(写真②)や数式が記された紙片。多くは学制が変わってからの物と思われませんが、戦前と思われる物も有りました。これら約40点余りは再開後に何らかの形で展示したいと考えます。

次に、竣工後の公開についてです。

その一つは、早稲田大学教育学部和田敦彦教授が中心となって現在進行中の『交友会雑誌』や『扶桑の花』の研究成果の公開です。近代教育黎明期からの資料の所蔵とその実践の場としての校舎が共に存在するという恐らく日本唯一の「場」です。これら貴重な資料公開も博物館の大切な役目ですので有意義に展開したいと思います。

その二つは、展示内容と活用方法です。建物の性質上二階の展示については重量物を避けることをアドバイスされています。旧本館全体の容量を超えることは出来ませんので、今までの展示を見直しつつも「安積」は残さねばなりません。

また、利活用についてですが、従来から旧本館の運営経費は支援者(多くは桑野会員)皆さまからの寄附金によるものですが、年々減少傾向が続いています。また、展示内容とも関連しますが、入館料の収入に占める割合は僅かです。旧本館の魅力や雰囲気発信し利活用を通じて収入に変換できるような工夫が求められているのも事実です。

終わりに、安積で出会い、安積を巣立った皆様と共に「旧本館」に安積の歴史と伝統と故郷を残していきたいと思えます。今後ともご支援をお願いいたします。



You Tube
安積歴史博物館



故郷を味わう、故郷に触れあう

そば うどん 酒処

鞍手茶屋

昼はボリュームたっぷり
ヘルシーな そば・うどん
夜は品揃え豊富な
東北の地酒で一杯

大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1 ☎03-3213-2385
中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 ☎024-984-3774 <店主>上野千恵子

「夢を持ち続ける」ことが、人生とロケットの推進力に

森合秀樹（97期）

私が宇宙に強く惹かれるようになったのは、小学生の頃のことでした。夜、天体望遠鏡をのぞき込み、満天の星空を見上げながら、「いつか、あの世界へ行けたら」と夢見ていたことを昨夜のこのように、今でもよく覚えております。なぜならその思いは形を変えながらも、今日まで消えることなく続いているからです。

私の価値観や行動の原点である「夢を持ち続ける」ことができたのは、安積高校における貴重な3年間の経験が大きいと思います。高校時代、私は柔道部に所属して三年生では主将を任されましたが、一つ下の学年は全員が退部し、部の存続すら危ぶまれる状況となりました。それでも三年生で引退後、入試本番直前の12月まで道場に通い、一年生と向き合い続けました。人を育てることの難しさ、関わり続けることの大切さを、このとき初めて実感しました。また、一年生の応援歌練習は、今で言えばしごきやハラスメントと受け取られかねない厳しい指導でしたが、人としての強さと柔軟性を育てる——それも安積で学んだ大切なことでした。もちろん、部の顧問や担任を初めとした安積の熱心かつ個性豊かな先生方からは、人としてのありかたを含め、様々なことを学びました。

安積高校を卒業後、私は国立大学に進学しましたが、当時在籍したヨット部の活動にかまけて成績が今一つだったこともあり、「原子力ロケットの研究ができるかもしれない」と原子力工学を専攻しました。そして就職面接では、無謀にも「隣のアルファ・ケンタウリ太陽系へ行くエンジンを開発したい」と訴え、それでも寛容にも内定をくれた大手重工メーカーに入社しました。以来30年以上、H2/H2Aロケット

用をはじめとしたロケットエンジン、大型民間航空機や防衛用ヘリコプター・ミサイル向けの航空エンジンの開発・設計に携わることとなります。会社人生を通じて設計部門で実機ハードウェアの成立性を追求する立場にありましたが、一方で幸運にも、国内外の大学院で勉強や共同研究の機会を得て、「夢を漠然と意識しつつ」基礎研究にも取り組むことができました。

重工メーカーの開発設計の仕事にはやりがいがありました。が、実機ビジネスという枠組みの中で、年齢とともに挑戦の限界を感じるようにもなりました。そこで立ち返ったのが、幼い頃からの宇宙への憧れ、そして人類未踏の隣のアルファ・ケンタウリ太陽系を目指すという「持ち続けてきた」夢でした。そして数年前に大学に移籍し、以来大学教員として、若い学生らとともに研究を続けております。

隣の恒星系とはいえ、距離は4.3光年。途方もない挑戦です。しかし、「不可能そうだからやらない」のではなく、「どうすれば可能になるのかを考え続け、少しでも前へ進む」ことが研究の醍醐味です。ライフワークとしてはもちろん、世代や国を超えた人類の目標としても、これ以上ないほど魅力的なテーマだと考えております。

若い人にはぜひ自分なりの夢を持ち続けてほしいと思います。最初は希望の仕事を選ばなかったり、上司や客先の理不尽さに直面したりすることもあると思いますが、どんな仕事でも前向きに行えば学ぶことは多く、必ず後で役立つと思います。また、私が実感するのは、自分にとって人生で最も幸運だったことは、驚くことに、最悪と思った仕事や配置転換、あるいは人との出会いだったということです。それらが自分でも思っていなかった可能性を引き出し、結果として幸福や夢につながってきたのだと感じています。例えば、意に反して宇宙部門から航空部門へ異動したことが、異なる価値観や海外駐在の経験等、視野の拡大につながり、意に反して駐在先から帰国を命じられたことが、大学共同研究と学位取

不法電波は
やめましょう！

技術と奉仕の無線機器部門
ソフト開発と奉仕のコンピュータ機器部門
ニーズに対応、奉仕の電話機器部門
株式会社富士通ゼネラル通信特機特約店
富士通テン株式会社特約店

ATIS(自動識別装置)を
必ず取り付けましょう！

株式会社 山口電機

本社 宇都宮市宮の内2丁目184番地18
水戸支店 水戸市中河内町67番地1
さいたま支店 さいたま市三橋1丁目815番地
東京支店 江戸川区春江町2丁目10番3号
千葉支店 千葉市稲毛区六方町215番地22
高崎支店 高崎市倉賀野町5319番地1
会津若松支店 会津若松市一箕町八幡38番地11号
横浜支店 横浜市青葉区元石川町3719番地8

TEL(028) 655-1600(代表)・FAX(028) 653-7817
TEL(029) 227-2205(代表)・FAX(029) 227-2237
TEL(048) 663-4000(代表)・FAX(048) 663-4274
TEL(03) 3698-1600(代表)・FAX(03) 3698-1699
TEL(043) 423-3000(代表)・FAX(043) 423-3503
TEL(027) 346-4000(代表)・FAX(027) 346-4004
TEL(0242) 23-1700(代表)・FAX(0242) 23-1701
TEL(045) 921-5100(代表)・FAX(045) 921-5416

代表取締役 山口雄機（74期）

得、今の仕事につながったことでしょうか。一方で、いざとなれば仕事は変えればすみますが、家族は人生でただ一つの存在。かけがえのないものです。夢に向かって進むときほど、家族を何よりも大切に、苦楽を分かち合いながら歩みを止めずに前へ進みたいものです。

最後に、今改めて振り返ってみると、安積で学び「夢を持ち続ける」ことが推進力となって、自分自身を前へ押し出し、光り輝かせてくれたのだと感じます。そして素晴らしい家族や仲間にも恵まれながら夢を目指す、これ以上ない幸せな人生につながったのではないかと思います。しかし、まだ私の人生は終わっていません。この推進力を、遙かな宇宙を目指すロケットの巨大な推進力へ、命ある限りつなげたいと思います。皆さんがそれぞれの「夢を持ち続け」、次の時代を切り拓いていかれることを心から願っております。

(金沢工業大学工学部教授)



時代は毎日通学し、雨の日も雪の日も自転車をこぎましたが、未来の生徒は“通学はイベント”になるようです。

姉妹校は国内外に広がっています。国内では東京の有名進学校と連携してAI研究を促進するのに加え、沖縄や瀬戸内の島の学校と手を結び、海や森と共に学ぶ。

国外では、科目を横断して社会課題の探求に取り組むフィンランドの教育先進校、そしてハワイのグローバルスクールと提携。時差のある姉妹校とも衛星ネットで同時授業が可能になり、海を越えてチームが組まれる。私たちの頃は「郡山から東京に行くだけで大冒険」でしたが、今や世界がキャンパスです。

修学旅行はどうなる？ AIの答えは「ハワイ+VRで火星探検」。現実と仮想の融合で、宇宙旅行気分を味わえるそうです。私たちの時代は京都・奈良で寺社巡りでしたが、未来の生徒は“銀河系”を旅するのです。

授業もこの10年のテクノロジーの進歩で変わります。AIが生徒一人ひとりの強みを分析して時間割を組み、ARは歴史の現場や人体細胞の中に連れていく。気候変動の授業では量子コンピュータが使われ、分子生物学では遺伝子編集の倫理を議論する。体育ではウェアラブルで測定される心拍数などのバイタルデータから負荷を最適化し、学びと健康のバランスが保たれる。もちろん、AIやロボットの悪用を防ぐため、倫理教育とデータ管理が重要科目になっています。

では、他校にない安積高校の魅力は？ AIはこう言いました。「伝統と革新の融合」。男子校だった歴史を持ちながら、今は男女共学で多様性を尊重。さらに、AIと人間の協働授業、地域連携による実社会プロジェクトが強み。郡山の歴史



AIに聞いた10年後の安積高校

國分正哉 (98期)

質問：テーマは、「AIに聞いた安積高校の未来」として、字数は1000字、書き手である僕が安積高校98期生、1966年生まれで1985年に安積高校を卒業したことを踏まえて書いてください。スタイルは、ちょっとユーモア有り。ユーモアの段階は10のうち2でお願いします。

1985年、男子校だった安積高校を卒業した私が、AIに「10年後の母校」を聞いてみました。

まず、通学はどうなるのか？ AIは「完全オンラインではなく、週3日登校のハイブリッド型」と予測。理由は「人間関係は画面越しでは育たないから」。なるほど、私たちの

保険薬局グループ <https://winpharma.jp/>

ウインファーマグループはお陰様で創立27周年



ウイン薬局



ウインドラッグ
楽天市場店

～ 人と人のつながりを愛します ～

地域密着したかかりつけ薬局を目指します

首都圏・関東・福島県関連薬局 65店舗

【保険薬局：処方せん受付・医薬品・医療用品・インターネット販売】

ウインファーマグループは創業27年 安心・安全・信頼を築き、
心を込めて調剤します。

代表 藤田 勝久(82期)

や文化を学びながら、世界とつながる探究を実践する“ローカル&グローバル”の学びは、他校にはない強み。伝統を礎に未来を描く、その柔軟さが安積高校の誇りです。つまり、ただ未来的なだけでなく、根っこにある“安積魂”が生き続けているのです。

最後にAIがこう締めくくりました。「未来は変わっても、安積高校の精神は不変」。校歌がAI作曲になっても、同窓生の絆は変わらない。次の同窓会では、2036年の話題で盛り上がりましょう。

以上の文章は、私のパソコンに入っている生成AI「Microsoft Copilot」が作ったものです。私は、この生成AIを「コパイくん」と呼んでいて、東京桑野会の会報向け原稿を書くので協力してほしいと頼みました。冒頭の「質問」を入力すると、これぐらいの原稿なら、コパイくんは数十秒で書いてくれます。要望をいくつか追加すれば、もう完成です。生成AIが「魂」の話を持ち出してきたのには驚かされました。

ちなみに、写真を加工するのも得意です。今回は、著作権を侵害しないように、自撮り写真を線画イラストにしてみました。

AI革命はものすごく身近になりました。これからAIがもっと便利になるのは確実です。人工知能が人間の知能を超える「シンギュラリティ（技術的特異点）」が本当に来るのか、それが2045年なのかは分かりませんが……、みなさんも生成AIをぜひ一度、お試しあれ。

(株)日経BP 出版チーフプロデューサー)



医学生として過ごす中で

十林 悠 (137期)

2024年3月、母校の級友たちと別れてから早くも約2年の歳月が過ぎました。私は今、千葉大学の医学部に在学中で、この原稿を執筆している12月現在は肉眼解剖学実習に励んでおります。この度、桑野会報に寄稿させていただく機会をいただきましたので、卒業後の生活の中で感じたことを話させていただきます。

医学生として学ばせていただく中で感じるのは、世間の皆様方が厳しい視線を我々に抱いていることでもあります。具体的な新聞社名を挙げるのは控えさせていただきますが、先日、私が解剖実習でお世話になっている准教授が篤志献体についてインタビューに答えていました。もちろん有名なメディアですからネット記事にもなり多くのコメントが寄せられていました。その多くは、本当に医学生は真剣に取り組んでいる

のか、美容外科医が写真をあげていたように敬意が欠けている医学生・医師が多いのではないかとこのものでした。

安高生もまた、世間からこのような目で見られる存在であるように思います。それはなぜかといえば、あの天下の安積高校に入学するような人なのだからという期待が多くの県民の中にあるからでしょう。その期待に応えることが安高生の、そして我々桑野会員の責務であるというのは、もはや故郷では常識になっていると言っても過言ではないでしょう。上述したネット記事のコメントは、このような期待に応えなかった医師がいることで全体に対する見方が冷たいものになった結果でしょう。これを安高生に当てはめるのであれば、我々卒業生の行動は安高生、ひいては同窓生全体に対する見方を左右するものでしょう。人生100年時代と呼ばれる今、残りの80年ほどの人生を安積の名に恥じぬ生き方をしていきたいものです。

さて、前述した篤志献体ですが、会員の皆様方はどのようなイメージを持っていらっしゃるでしょうか。きっと先ほどのネット記事のコメント同様、本当に医学教育の役に立っているのか疑問を抱えている方も多いのではないのでしょうか。これに一医学生として答えるとすれば、頭が上がらないほど役に立っていますというのが私の答えです。実習の中で実際に自分の手と眼で学んだことというのは、不思議なもので、座学で学んだことと違って全然忘れないのです。皆さんが思い描く解剖実習というのは、学生が黙々と、おそらくこれがこうなっているのだろうと曖昧な理解のまま進めている光景かもしれません。しかしながら実際は毎週月水金、夜まで解剖実習室にこもって班員と筋肉の同定や神経・血管の剖出をしながら、実際に臨床医をしている教員の方々はその日解剖した場所が臨床にどのようにかわるのか教えていただく、というのが最近の私の生活であります。一度、他大学の教授からお話を聞く機会がありましたが、ただ解剖をするだけではなく、学生も教員もこんなに話し合いながら人体の理解に努めようとしているのはきっと千葉大だけだろうとおっしゃっていました。大変恵まれた環境で学ばせていただいていると思うと、献体の先生方には頭上がりません。

このように医学教育において欠かすことのできない解剖実習ですが、献体が足りていないという課題を多くの大学が抱え始めています。もちろん篤志によるものですからこれに不満を言う立場にはないのは重々承知ではありますが、実は本人は献体しようとしていたが家族と話せていなかったから、ご遺族が火葬したのちに献体登録が明らかとなるパターンというのも少なからずあります。私のこの寄稿が、会員の皆様方が献体や臓器提供など普段は話づらいことを家族で話し合うための一助となれば幸いです。



小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3
TEL 0248-72-1555

安積中高一貫校新校舎紹介

鹿田 征歳 (102期)

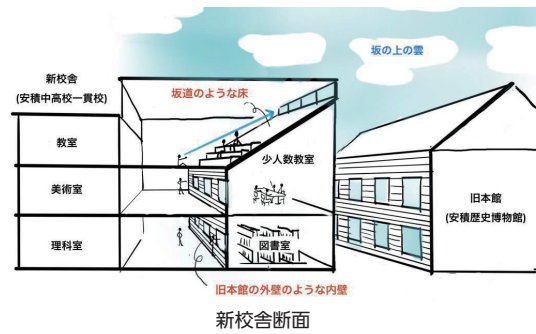
安積高校の中高一貫化をご存じでも、そのための新校舎がどこに、どんな姿で建っているのかまでご存じの方は多くないかもしれません。今回は、その新校舎について簡単にご報告します。

まず立地です。新校舎は、司馬遼太郎『坂の上の雲』のドラマでも舞台となった旧本館のすぐ背後、まるで先輩の背に従うような位置に建っています。

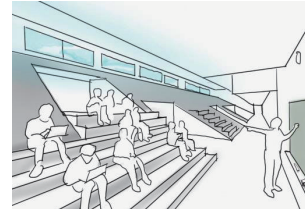
この配置を踏まえ、建築士でもある私が貴重な誌面をお借りしてお伝えしたいのは、そのユニークな空間づくりです。新校舎の断面には、旧本館の半身が新校舎に食い込み、その輪郭が“型押し”されたかのような造形が採用されています。歴史の形象が新しい内部空間に入り込むこの手つきは、一見すると奇をてらった表現にも見えるかもしれません。しかし私はそう捉えません。設計者は、東大教授として既存の建築形式を問い直す試みを一貫して続けてきた方であり、私もかつて設計競技の場でお話する機会を得て以来、学びの器そのものを再編する氏の取り組みに注目してきました。今回の“型押し”も、まさにその延長線上にある骨太な提案だと受け止めています。

具体例を挙げましょう。新校舎の内部には、旧本館の外壁意匠を模したコンクリート壁が現れます。板を重ね張りしたような形をコンクリートで再現し、旧本館のスケールに合わせた窓も忠実に穿たれています。その窓の向こうには図書室（桑野文庫）が設けられ、新しい廊下から“歴史の壁”越しに蔵書をのぞき込む体験が生まれます。外観形状の引用にとどまらず、学びの中心である図書室を介して、新旧校舎の歴史を身体的に接続する意図が伝わってきます。

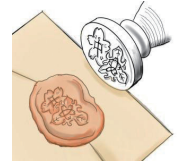
こうしてこの“型押し”は、さらに詩的な意味を帯びます。手紙の封を閉じる封蝋の如く、ぎゅっと押し固められた形に、歴史や先輩たちのメッセージが封じ込められる。そして新校舎で学ぶ生徒たちは、日々のキャンパスライフを通して、そのメッセージを身体的に読み解き＝開封していく。ここまで読み取るのは、私の深読みに過ぎるでしょうか。



新校舎断面



安積野ホール



次に、旧本館の屋根を模した斜めラインの継承についてです。新校舎では、その斜線を屋根ではなく“床”として大胆に活用しました。同じ斜めの床面が、下の階では家型の天井面として親密さを生み、上階ではひな壇を備えた階段教室として教壇への視線を確保します。生徒同士が気軽に使える、自由でのびやかな空間です。

後輩たちがこの最上階の床に腰を下ろし、友人の向こうに斜め床を見上げるとき、その先に空へつながる窓が見えるはず。それはまさに、“坂の上の雲”を思わせる情景と言えるのではないのでしょうか。

「明治の偉人たちのように、志高く君たちも羽ばたいてほしい」と私が言うよりも、ここで学ぶ後輩たちと、いつか東京桑野会で出会う日を楽しみにしつつ、最後に『坂の上の雲』オープニングの一節を記して、新校舎のレポートを締めくくりたいと思います（NHKドラマ版より）。

「彼らは明治という時代人の体質で、前のみを見つめながら歩く。上って行く坂の上の青い天に、もし一朵の白い雲が輝いているとすれば、そののみを見つめて、坂を上っていくであろう。」

安積高校を再び訪れて

須賀 珠恵 (117期)

私が入学したのは男女共学になった年で、女子は3割程度でした。女子は珍しいからと教室まで見に来る先輩がいたり、新入生歓迎会で激しい歓迎を受けたり、応援歌練習で腕立て伏せをしたり、驚くこともたくさんありましたが、今では良い思い出です。

弓道部に入部しましたが、そこで出会った友人とは、部活

動はもちろんですが、テスト勉強やマラソン練習等も励ましながら乗り越えました。応援歌練習は嫌だったのに、野球の応援には弓道部皆で駆けつけ暑い中盛り上がりました。久しぶりに会っても何でも相談できる頼れる友人ばかりです。高校卒業から20年以上経ちますが今でも関係が続いており、大変嬉しく思っています。

福島県庁に新採用で配属された際、安積高校出身の先輩に「まさか女性の後輩ができるとは思わなかった。母校のよしみで何でも相談して。」と言われました。本当に遠慮なく相談させていただき大変助かりました。また、県庁桑野会にも参加し、皆で肩を組んで校歌や紫の旗を歌ったのも良い思い出

株式会社開成プランニング 代表取締役
(<http://www.kaisei-planning.co.jp>)

和田 正哉 (77期)

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-2
勤務先電話：03-6261-0161
FAX：03-3938-0073
携帯：080-2929-1428
e-mail: wada@kaisei-planning.co.jp

本田 宏 (86期)

NPO法人医療制度研究会 理事長

hondahiroshi@me.com 090-3205-9482

樹液を吸い取る政治
医療・社会保障充実を阻む
ものとの訣別へ
(あけび書房) 1800円＋税

短編映画
公的医療はどこへ行く
差し迫る医療崩壊
Vimeo 1000円



労働保険の特別加入
1人親方労災保険加入のご用命は！

労働保険事務組合
神奈川SR経営労務センター

顧問 佐藤 重夫 (79期)

(特定社会保険労務士)

事務局 〒231-0005 横浜市中区本町4-36
朝日生命横浜本町ビル8F
TEL: 045-212-5269
FAX: 045-212-3177
<http://www.kanagawa-src.jp>

出です。初対面でも応援歌練習やロードレース大会などの話が弾み、年齢の壁を越えて大いに盛り上がりました。安積高校出身という共通点で大変親切にいただき、母校の絆の強さを実感しました。

現在、福島県中地方振興局に勤務し、「産学官連携によるキャリア探求事業～県中地域で見つける未来の芽～」という事業を立ち上げ、安積高校でキャリア教育を行っています。安積高校は大学進学する生徒がほとんどですが、高校生うちに地元企業の魅力を知ってもらい将来の就職に活かしてもらうため、昨年度は出前講座や企業見学を実施しました。初めての試みでしたが、森下校長先生、橋爪副校長先生をはじめ、多くの先生方、そして地元企業、研究機関の皆さんのご協力で、無事実施することができました。また、地元企業の安積高校OBの力も大きく、「自分もOBで母校のためにぜひ協力したい」と積極的にご協力いただきました。生徒さんも意欲的に質問していただき、有意義な取組ができたと感じています。実は自分の地元にも国内外で活躍している、魅力あふれる素晴らしい研究機関や企業が多数あるのだと気付いてもらえたら嬉しいです。

今後も母校のキャリア教育でお役に立てるよう頑張りたいと思います。そして、先輩方に親切にいただいた分、後輩の力になりご恩返しをしたいと思います。

(福島県中地方振興局)



活の青春の一部として記憶に残っています。

秋には、東山霊園を一周するロードレース大会が行われました。起伏の多いコースを完走することを目標に走った経験は、忍耐力を養う機会であったと感じています。

毎年のクラス替えは緊張もありましたが、良き仲間恵まれ、学業や部活動に取り組んだ3年間は、私にとって大変貴重な時間となりました。

現在は、福島県中地方振興局に勤務しております。社会人となり、安積高校卒業生の先輩方と接する機会が増える中で、「〇〇期」という独特の表現が、世代を超えたつながりを生む有効な文化であると感じています。

業務では、移住・定住推進および「ふくしまデスティネーションキャンペーン」の担当をしております。安積高校卒業生の方々にセミナー登壇をお願いしたり、起業された後輩の講演を拝聴したりする中で、同じ学び舎で学んだ者同士の連帯感を覚える場面も少なくありません。今後も、安積高校とのつながりを大切にしていきたいと考えております。

結びに、現在福島県では、4月1日から6月30日までの期間、JRグループ、県、市町村が連携し、「ふくしまデスティネーションキャンペーン」を実施しております。東京桑野会の皆さまにおかれましても、帰省の機会などを通じて福島に足をお運びいただき、地域の魅力に触れていただければ幸いです。

(福島県中地方振興局)



高校時代を振り返って

鈴木直実 (117期)

117期の鈴木と申します。私が安積高校に入学した年は、男女共学が開始された年にあたります。当時、中学校の教員からは「女子の合格者は少ない」との理由で、受験校の変更を勧められることもありましたが、塾の友人たちと励まし合いながら受験に臨み、無事に合格することができました。

当時の1学年は約400名で、そのうち女子は120名弱でした。郡山市内の小規模な中学校から進学した私にとって、在校生・教職員を含め1,200名を超える安積高校の規模は、入学当初大きな驚きでした。

入学後間もなく行われた応援歌練習では、応援団の先輩方による厳しい指導に戸惑いを覚えたことを記憶しています。しかし、次第に学校行事の一環として受け止められるようになり、今振り返ると、安積高校ならではの伝統行事であったと感じています。

夏休みには課外授業が実施され、当時は校内に冷房設備が整っていなかったため、奥羽大学の教室を借りて授業が行われていました。移動距離もあり、帰路では郡山駅まで友人と歩くことも多くありましたが、そうした日々も含め、高校生

ふくしまデスティネーションキャンペーン公式サイト
URL : <https://www.fukushima-dc-cp.jp/>

安積高校への思い

乾 圭輔 (121期)

入学早々の応援歌練習、入る高校をまちがえたのでは？と思いましたが、やっていくうちに楽しくなっていったのを覚えています。いまでも同級生や高校の先輩と話すとき応援歌練習の話になりますし、カラオケに行くと応援歌を歌いだすものもいて、私たち卒業生の心と魂に安積高校が刻まれていることを痛感します。在学中のことを振り返ると非常に環境に恵まれたという思いになります。同級生はみな個性豊かでおもしろく、心やさしい人ばかりでした。それでいて、各々の芯があり魅力あふれる同級生たちに刺激され、尊敬の念を抱きながら学生生活を送ることができました。一見バラバラの個性ではありましたが、文化祭や体育祭など、どんなタイプの生徒であれ一丸となって取り組んだのは良い思い出です。安積高校は、私にとって高校生活を彩り、たくさんの成長と思い出をくれた恩師のように思えます。また安積高校で過ごした日々があったから、福島のことを好きになったのだと思

21世紀をリードする
安積SPIRIT!

浅川 章 (76期)

〒338-0821 さいたま市桜区山久保2-18-3
電子メール : chobi@hyper.ocn.ne.jp

ごや
山田・合谷・鈴木法律事務所

弁護士 鈴木 修一 (89期)

〒100-0012
東京都千代田区日比谷公園1番3号
市政会館1階115号室
TEL:03-3501-0451
FAX:03-3501-0452
E-mail:shuitsuzuki@nifty.com
<http://www.yamada-law.gr.jp>

おさしのきずな法律事務所

代表弁護士 安孫子 哲教
(115期)

〒180-0003
東京都武蔵野市吉祥寺南町2-2-5
アスコナミエビル6階
E-mail: abiko@m-k-lawoffice.jp
TEL: 0422-662-2921 / FAX: 0422-662-2923
是非お気軽にご相談ください!

います。

2011年に東日本大震災が起きた時、私は県外の大学にいました。故郷である福島に帰りたくても帰れず、福島で苦しんでいる人がたくさんいる中で、自分自身が何もできないことに歯がゆい思いをしました。なにか福島のために自分ができることはないか、そんな思いを心に秘めながら残りの学生生活を送りました。学生生活も終わりに近づき、いざ就職活動を始めた際に、その思いを形にしてみたいと思うようになり、結果として私は福島で就職することを決め、現在は県職員として働いています。

安積高校在学中の文化祭、箭内道彦さんの講演を聴講しました。誰もが知っているCM・広告を手掛けたことや、在学中の話聞き、同じ高校出身でこんなすごい方がいることに感銘を受けました。県職員となった今、箭内道彦さんの福島への貢献について知る機会も多く、本当に偉大な方だと思っています。箭内道彦さん以外でも、社会人になってから出会った安積高校の先輩や起業した同級生など、いろいろなところで活躍する安高生を見聞きするたび、母校のすばらしさを感じます。安積高校には、これからも福島を代表とする誇り高い高校でいてもらうとともに、福島、日本、世界に恩恵をもたらす人材育成の重要拠点としての役割を果たしてほしいと思います。そして卒業生が活躍する姿をみながら、福島で余生を過ごせたらと思う次第です。

私自身は、そこまでの輝かしい功績を残すことは難しいと思いますが、微力ながらも県職員として福島を支えていければと思います。現在県中地方の地域づくりを支援する業務を主に行っていますが、その中で福島空港の利活用促進、主に台湾-福島便の利用促進を目的として「こおりやま台湾夜市」というイベントを実施します。ぜひ皆様にも来ていただければと存じます。また違う業務では、地域課題の解決や地域の活性化に結び付く取り組みに対する補助金業務を行っております。もしこの記事を読んだ方で、福島県の地域のために活動しておられる方がいれば、ぜひお問い合わせください。

(福島県県中地方振興局)



諸先輩方の寄稿に混ざり、少し恐縮な気持ちでございます。

佐藤明咲花 (134期)

134期の佐藤明咲花と申します。昨年大学を卒業し、今年から都内でシステムエンジニアとして働いております。情報分野は未経験で分からないことばかりですが、開拓者精神というところでしょうか、未知の領域に臆することなく、高校時代に培った勉強習慣を支えに、日々仕事に向き合っています。

さて、私が安積で過ごした三年間を振り返ると、まさに音楽漬けの日々だったように思います。吹奏楽部に所属し、ト

ロンボーンを担当していました。高校での活動に加え、休日には地域のオーケストラにも所属し、音楽に触れない日はほとんどありませんでした。仲間と音を重ね、一つの響きをつくり上げていく時間は、当時の私にとって何よりも充実したものでした。

当時は旧校舎(安積歴史博物館)で練習することも多く、現在は工事のため利用できないと聞いていますが、帰省時に学校の前を通るたび、吹奏楽部での日々が思い出されます。あのような貴重な文化施設を日常的に使わせていただいていたことを、今になって有難く感じています。

高校時代の大きな思い出として、吹奏楽コンクールで約三十年ぶりに県大会金賞を受賞したこと、またアンサンブルコンテストで思いがけず県大会に出場できたことが挙げられます。特別な才能があったわけではありませんが、日々の積み重ねと仲間と向き合いながら音楽をつくってきた時間が、結果として形になったのだと感じています。今でも当時の録音を聞き返し、思い出に浸ることがあり、それほど吹奏楽部での日々は私の人生の中で、かけがえのない楽しい時間だったのだと実感します。

しかし、高校最後の一年は、新型コロナウイルスの影響により、コンクールや演奏会が相次いで中止となりました。最後に舞台上で演奏する機会を失ったまま引退を迎え、どこか不完全燃焼の思いを抱えたまま高校生活を終えることになりました。

高校卒業後は、もともとスポーツを観ることが好きだったことから、スポーツ系の学部に進学しました(吹奏楽部だったがゆえ、何故?とよく周囲からツッコまれますが……笑)。「スポーツに携わる仕事をしたい」という目標をかなえるため、大学ではハンドボール部に所属し、マネージャーとして活動しました。生活の中心はスポーツへと移りましたが、心のどこかには音楽への思いがありました。しかし忙しい日々の中で、楽器を手取る時間をつくることはできずにいました。

大学時代には楽器から離れてしまいましたが、社会人となり、生活に少し余裕が生まれたことをきっかけに、再び音楽と向き合うようになりました。不完全燃焼の思いと音楽が好きだという気持ち、和音がびたりとはまった瞬間の心地よさに背中を押され、地域のオーケストラや会社の吹奏楽団で演奏を再開しました。社会人として初めて迎えた演奏会で演奏したのは、「チャイコフスキー 交響曲第5番」でした。高校時代、弦楽合奏部と合同で演奏するはずが、コロナによる演奏会中止で演奏が叶わなかった曲です。五年ぶりの本番でしたが、後日録音を聴き返すと、ホールに響く自分の音、そして仲間たちの音が、あの頃と変わらずそこにありました。

今では休日に一日楽器を吹いて過ごすこともあります。年月を経て再び音楽に向き合う中で、安積高校吹奏楽部で過ごした日々が、自分にとって確かな原点であったことを改めて実感しています。



がんばれ安積 がんばれ日本

渡邊 龍一郎 (81期)

Watanabe Ryuichiro

〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-31-5-513

Phone : 090-1429-6127

E-mail : watanabe2021@ryu.bz

あらゆる**木質の床**を心を込めて施工します。
OK工法(床工事・内装工事)・鋼製床・乾式床・フローリングボード
フローリングブロック・塗床・ネダホーム・OAフロアーその他一式工事

木質床(フローリング)施工

孝和建商株式会社

千葉市中央区汐見丘16番12号

総務部 相談役 小林伸久(84期)

電話:043-245-4111 FAX:043-244-9550

携帯:080-2045-0962

E-mail:nobuhisakoba@docomo.ne.jp

晴海パートナーズ法律事務所

弁護士 後藤 大 (107期)

マネージングパートナー

〒104-0045

東京都中央区築地2-15-19

ミレニアム築地6階

E-mail: gotodai@harumi-partners.jp

「晴海パートナーズ」で検索ください

TEL: 03-6264-1588 / FAX: 03-6264-1589

活動協賛金の創設と東京桑野会支援のお願い

会員の皆様には平素、東京桑野会の活動にご理解とご協力をいただきまして、まことにありがとうございます。昨今の諸物価の高騰等により当会会報の発行経費が増大し、会計経理の逼迫化をきたしています。今後も安定的な当会活動の推進を図るために会費のご負担とは別に、このたび『活動協賛金』を創設し、皆様の支援をいただきたくご理解とご支援をお願いする次第です。活動協賛金は会報発行及び活動資金として有効に使わせていただきます。

協賛金の目安は「一口 1,000円」で一口以上幾口でも結構です。

同封の振替票を使用してご協力ください。



安積高校 vs 安積黎明高校 第19回野球定期戦

雲一つない晴天の中、2025年5月8日13:20よりヨーク開成山スタジアム（開成山球場）にて、安積高校と安積黎明高校の第19回高校野球定期戦が行われた。球場では、紫一色に染まった安高生が、応援団や吹奏楽部による力強い応援のもと、一丸となって野球部の選手を応援した。

試合は序盤から安積黎明高校が得点を重ねてリードを広げ、安積高校にとっては非常に苦しい試合展開が続い

たが、応援団や吹奏楽部そして全校生徒の応援が届き、5回裏で6点をたたき出し大逆転を果たした。

白熱した試合は6イニング制で、8対7で、昨年に引き続き安積高校が優勝。試合終了後には、主将に優勝トロフィーが贈呈されたのち、安積高校と安積黎明高校がそれぞれエール校歌を送り合い、互いに感謝と激励を示して試合を締めくくった。

QRコードを読み取って試合動画をご覧ください。



安積高校応援団



試合結果スコアボード



You Tube 試合動画
QRコード

新神田法律事務所

弁護士 **上石利男** (80期)

〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町2-9-5 東園ビル7階
TEL03-3252-9671 / FAX03-3252-9673
E-mail: shin9671@athena.ocn.ne.jp

新神田法律事務所

奮い立て我健男児

大矢 真弘 (88期)

株式会社 櫻井計画工房

取締役 一級建築士

櫻井 淳 (78期)

郵便番号: 231-0014
住所: 横浜市中区常盤町2-10
常盤不動産ビル2F106
TEL: 045-663-9271
FAX: 045-663-9273

令和6年度決算報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

	費目	決算額	予算額
1 収入の部	(1) 前年度繰越金	2,747,268	2,747,268
	(2) 年会費収入	610,000	900,000
	(3) 寄付金収入	15,300	0
	(4) 総会費収入	971,000	1,000,000
	(5) 協賛広告料	160,000	290,000
	(6) 受取利息	728	14
	(7) 雑収入	66,190	0
		収入合計	4,570,486
2 支出の部	(1) 総会懇親会費	1,316,961	1,323,900
	(2) 通信費	4,334	20,000
	(3) 会議費	122,310	30,000
	(4) 会報作成費 (No.45)	407,000	342,760
	会報作成費 (No.46)	447,700	
	(5) 会報発送費 (No.45)	429,224	244,127
	会報発送費 (No.46)	366,713	
	(6) 事務消耗品費	18,110	100,000
	(7) 母校後援費	22,000	0
	(8) 冠婚葬祭費	60,500	0
	(9) 支払手数料	60,391	100,000
	(10) 人件費	0	120,000
	(11) 交通費	0	0
	(12) 名簿編集費	0	0
	(13) ホームページ・広報部会運営費	0	37,244
	(14) 雑費	76,100	10,000
(15) 予備費	0	10,000	
	支出合計	3,331,343	2,338,031
	次期繰越金	1,239,143	2,599,251

令和7年度予算案

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

	費目	予算額
1 収入の部	(1) 前年度繰越金	1,239,143
	(2) 年会費収入	700,000
	(3) 寄付金収入	0
	(4) 総会費収入	1,200,000
	(5) 協賛広告料	290,000
	(6) 受取利息	14
	(7) 雑収入	0
		収入合計
2 支出の部	(1) 総会懇親会費	1,223,000
	(2) 通信費	20,000
	(3) 会議費	150,000
	(4) 会報作成費 (No.47)	447,700
	会報作成費 (No.45) 事務局立替分	200,640
	(5) 会報発送費 (No.47)	366,713
	会報発送費 (No.45) 事務局立替分	401,216
	(6) 事務消耗品費	20,000
	(7) 母校後援費	30,000
	(8) 冠婚葬祭費	50,000
	(9) 支払手数料	100,000
	(10) 人件費	120,000
	(11) 交通費	0
	(12) 名簿編集費	0
	(13) ホームページ・広報部会運営費	37,244
	(14) 雑費	10,000
(15) 予備費	10,000	
	支出合計	3,186,513
	次期繰越金	242,644

3 財産目録	金額
(令和7年3月31日現在)	
特別会計 事業準備積立金 定期預金 (三井住友銀行)	568,060
現預金 (1) 普通預金 (三井住友銀行)	1,272,100
(2) 郵便振替貯金	369,770
(3) 現金	97,226
財産金額合計	2,307,156

左記は監査の結果いずれも適正なものとする。

令和7年5月31日

会計監査 青山 裕之

会計監査 大原 剛

事務局は移転しました。新事務局の地図は下記のとおりです。

『東京桑野会会報』No.48

2026年4月1日発行

発行・編集人●石井俊一

発行所●東京桑野会

〒104-0061

東京都中央区銀座八丁目9番13号

K-18ビル9階

石井総合事務所

Tel 03-3289-1411 Fax 03-3289-1422

E-mail asaka@tokyo-kuwano.jp

事務局ダイレクト

Email office@tokyo-kuwano.jp

URL https://www.tokyo-kuwano.jp

製 作●株式会社キタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel 03-3635-4510 Fax 03-3635-4515



石井総合事務所

司法書士・行政書士

石井 俊一 (82期)

〒104-0061 東京都中央区銀座8-9-13
K-18ビル9階

TEL :03-3289-1411

FAX :03-3289-1422

E-mail : s-ishii@e-1411.com

http://www.e-1411.com

【協賛広告のお願い】

東京桑野会会報は、三千数百部を発行し、母校・安積高校や福島県立図書館などにも納入されています。“安積卒業生の心意気”を協賛広告で示してみませんか。お問い合わせは事務局まで。

【会費納入のお願い】

東京桑野会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。会報の作成・送付も会費によって賄われています。現在、会報を送付している会員からの会費納入の達成率が低迷し、東京桑野会の財務が逼迫しつつあります。東京桑野会の健全な財務状態を維持するためにも会費納入をお願いいたします。(東京桑野会は安積桑野会とは別会計となっておりますことご承知ください)